海風 Kaze

蒲郡市民病院広報誌

「ここに来てよかった」と誰もが思える病院を

裵 漢成

蒲郡市民病院 院長補佐・整形外科部長・
リハビリテーション科部長
名古屋市立大学医学部 臨床教授
蒲郡市スポーツ医療・健康アドバイザー

No. 19
2025 SUMMER

蒲郡市民病院 医師インタビュー

vol.5

蒲郡市民病院 院長補佐・整形外科部長・
リハビリテーション科部長
名古屋市立大学医学部 臨床教授
蒲郡市スポーツ医療・健康アドバイザー

裵 漢成（はい ひろなり）

一燈照隅、万燈照国

幼少期――外遊びと読書で育まれた好奇心

愛知県春日井市で生まれ育ちました。

今でこそ骨太な風貌ですが、小学校に上がるまでは写真館で女の子に間違われるほど可愛らしかった……と両親から聞いています。まあ、かなり美化されてるんでしょうけどね（笑）。

小学生の頃は、とにかく外で遊んでばかり。日が暮れるまで走り回り、お腹を空かせて家に帰る毎日でした。ちょうどファミコン全盛期の時代でもあり、ゲームにハマると24時間ぶっ続けでやってしまうようなタイプでしたね。それを見た父から、「それだけ本気になれたら、何をやっても一番になれるぞ」と言われたことを今でも覚えています。

実は意外と本も好きで、小説よりも科学や歴史の本ばかり読んでいました。小学6年生のときには、父から辞典を一冊渡されて「これ、頭から最後まで全部読めたらお小遣いをあげる」と言われ、全部読み切ったことも。今思えば、あれが集中力や探求心を育ててくれた原点だったのかもしれません。

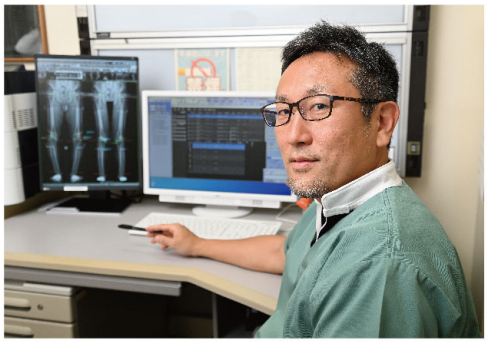
高校・大学時代――法学部から医学部へ、異色の挑戦

高校は「名古屋市内に出たい」という漠然とした想いから、進学校に進みました。優秀な仲間たちに囲まれ、本当に刺激的な環境でしたが、当時の僕はそのありがたみを全然わかっていなかった気がします。気づいたのは卒業してからですね。

高校生活は部活中心で、スラムダンクの影響もあってバスケ部に入りました。県大会にも進出しましたが、現三遠ネオフェニックスの監督、大野さんがいた愛工大名電に完敗し、「バスケはここまで」と思い知らされました。

部活引退時には、成績は下から数えて1～2割という状況（赤点は回避してましたが……）。医学部への憧れはあったものの、現実的には厳しく、センター試験後に文転して北

年齢よりも、その人が望む”活動性“こそが最適な手術を決める軸



海道大学の法学部へ進学しました。

正直、望んでいた進路ではありませんでしたが、親元を離れ、旧帝大の環境に身を置けたことは大きかった。多様な価値観に触れ、「自分の小ささ」に気づけた北海道時代でした。ただ、学生生活はぼんやりと過ぎていき、「このままでいいのか?」という思いが日に日に強くなり、再び医師を目指す決意をしました。

医学部再受験——北から南へ

小学生時代のファミコンのように、朝から晩まで一日10時間以上勉強を重ね、半年間本気で取り組んだ結果、琉球大学医学部に合格できました。

受験のとき、札幌は氷点下4度。那覇に降り立つと気温は20度超えで、「日本って広いな」と肌で実感しました。

沖縄での生活は、本州とは時間の流れも人との距離感も違っていて、いろんな意味でカルチャーショックの連続でした。でも、そこで学んだのは、「その土地に生きる人たちの歴史や感情には最大限の敬意を払うべきだ」という、ごく当たり前で大切なことでした。

それから、昔から興味のあったラグビーにも挑戦しました。医学部チームのみならず、全学チーム、社会人チームと、気づけば週7日で8回以上練習しているような生活に。国家試験直前の冬に出た地域代表戦で独走トライを決め、地元紙に写真付きで載ったのは、懐かしい思い出です。

ラグビーでは「仲間のために身体を張る」こと、“Pay it forward”=「受けた恩を次へ送る」精神を学びました。のめり込みすぎて、24歳のときには企業から「うちに就職しないか?」と誘われたこともあります。「来年も学校がありますす」と答えたら、「えっ、留年したのか?」と本気で驚かれました（笑）。

医師としての歩み——継続する努力が力に変わる

ようやく医師になる夢が叶ったわけですが、ストレートに医学部に進んだ同期と比べて専門のスタートが3〜4年遅れており、ずっと「出遅れ感」を引きずっていました。

だからこそ、最初の10年は、仕事があってもなくても毎晩寝落ちするまで勉強しよう——と心に決めて行動しました。

その成果がどれほどのものかは、医師を引退するその日までわかりませんが、後輩たちから「先生の机には本が山積みですね」と言われたり、「すぐに資料を出してくれる」と評価してもらえるようになったのは、多少の自信になっています。

僕の考えでは、医師は“賢いからなれる”職業ではなく、“努力を継続できるからなれる”職業です。国立医学部の合格には5000時間の勉強が必要とも言われますし、その点を踏まえると、医師として働く以上、学び続ける姿勢、努力を積み重ねる力こそが、何よりも大切な素養だと感じます。

そして、どれだけ学んで準備しても医療に100%の成功はありません。だからこそ、最善を尽くしても望まぬ結果が出た時に「これだけ努力したのだから許してほしい」と頭を下げられるくらいの努力を日々積み重ねることが、医師としての“責任の取り方”だと信じています。

地域医療への挑戦——構造破綻と機能不全。

前任地の豊川市民病院では、気づけば14年という長い時間を過ごしていました。赴任当初は、スポーツ外傷——例えば前十字靱帯損傷の再建術といった手術も、年間に1件あるかないかという状況でした。

同じ愛知県内に住んでいても、大都市と地方で提供される医療の格差に強い違和感を覚え、「名古屋市内と同等の整形外科治療を豊川でも提供したい」と心に決めて精進しました。

その結果、人工膝関節置換術や靱帯再建術などの件数は県内でも上位となり、今では県外のドクターからも名前を覚えていただけるようになりました。

中でも特に力を入れてきたのが「膝周囲骨切り術」です。いまでは日本でも標準的な治療になりつつありますが、取

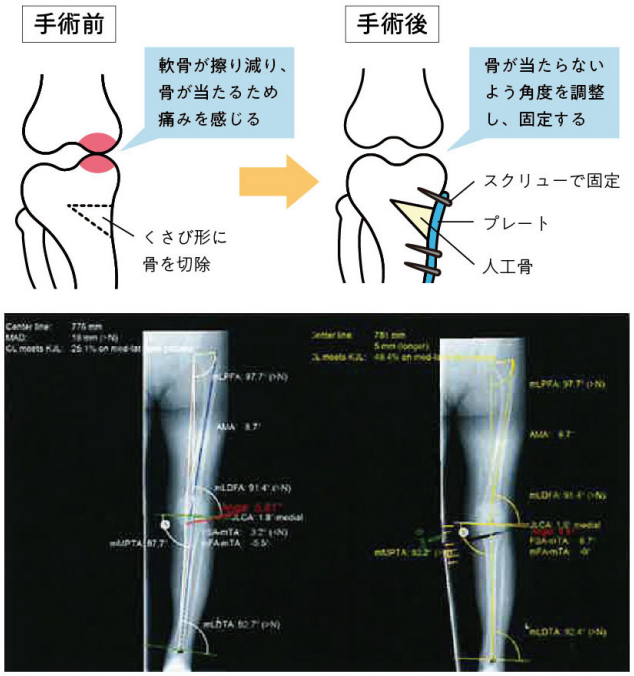
り組み始めた当初は国内に先行事例がほとんどなく、文献も海外のものばかり。けれど、他の方法では患者さんの要望に応えられない――そんな場面で「やるしかない」と覚悟を決めて踏み出したのが始まりでした。

最初のころは、レントゲン写真に定規を当てて線を引き、三角関数で角度を割り出すという、非常にアナログな方法で術式を計画していました（笑）。いまはドイツ製のシミュレーションソフトを導入し、レントゲン画像をＰＣ上で瞬時に解析し、患者さんと共有しながら手術内容を決めることができるようになりました。

この骨切り術は、自分の膝関節を温存できる点が最大の魅力です。人工関節と違い、スポーツなど高負荷の活動にも復帰しやすい。その一方で、「全員に適しているわけではない」とも感じています。

たとえば70代でも「ホノルルマラソンを完走したい」といった高い目標を持つ方には、膝周囲骨切り術がベストかもしれません。でも「60代だけど、家族と旅行を痛みなく楽しめたら十分」といった希望ならば、術後の回復が早い人工関節も素晴らしい選択肢になり得ます。

要は、年齢よりも、その人が望む“活動性”こそが最適な手術を決める軸。治療法の選択は、医師の視点以上に、患者さんの“生き方”を大切にしたいと思っています。



手術だけに頼らない医療――運動の重要性と次世代への視点

整形外科医というと、「手術で治す人」というイメージがあるかもしれません。もちろん、骨折や靱帯損傷など、構造的な破綻に対する外科的治療は我々の中心的な役割です。

しかし、コロナ禍で全国の学会が一気にオンライン化されたことで、逆に地域との関わりが増え、スポーツコミュニティの現場に触れる機会が増えました。そこではっきりと感じたのは、「壊れているから痛い」ではなく、「体の使い方が悪いから痛い」という、機能的な問題が本当に多いということでした。

実際、現代の10歳児の運動発達は、25年前の５歳児程度だという調査もあるほどです。社会の変化、遊びの減少、日常の動作が激変する中で、子どもたちの身体の機能そのものが危機的状況にある――それを肌で実感しました。

そこで２０２２年、豊川市在勤時代に「スポーツ医療・健康アドバイザー」に就任し、広く「動くことの大切さ」を伝える活動をスタートさせました。

そしてこの春から蒲郡市に赴任することとなり、ありがたいことに蒲郡市からも「スポーツ医療・健康アドバイザー」の委嘱をいただきました。今後は市内でも積極的に地域活動に関わり、医療の枠を超えた「健康づくり」のサポートをしていきたいと考えています。

蒲郡市民病院へ――人材育成と地域医療の未来に向けて

この４月から、蒲郡市民病院整形外科は名古屋大学から名古屋市立大学の関連施設へと移行し、私を含め５名体制で新たにスタートを切りました。

前任者からの引き継ぎがほぼなく、いわば「ゼロからの立ち上げ」。厳しい環境ではありましたが、スタッフ全員が本当に前向きで、高いモチベーションを持って取り組んでくれています。

僕が最初にチームに伝えたのは、「まずはコ・メディカルスタッフの皆さんからの信頼を獲得しよう。ＵＳＪのキャストのように、笑顔とホスピタリティを大切にしよう」ということでした。信頼と共感を基盤に、チーム医療を進めていく土台をつくりたいと思ったからです。この２ヶ月間は、全員にとって非常に濃密で、学びの多い時間となっています。

立ち上げの中で地域の課題として衝撃だったのは、小児整形医療の不足です。年間５００人以上の新生児がいるにもかかわらず、「整形外科の乳児健診は市外で受けてください」と案内せざるを得な

い状況でした。これは親としても、医師としても、見過ごせるものではありませんでした。

そこで麻酔科の先生方に相談し、小児の肘の骨折などの救急手術にも即応できる体制を整えました。さらに大学の小児整形グループとも連携し、今年7月からは「市内完結型の小児整形健診」がついに実現できる見通しとなっています。

ロボット手術、そして次世代へのバトン

今期から、蒲郡市民病院でも整形外科ロボット手術の導入を進めています。これは、患者さんにとっては正確で安全な手術を受けられるという大きなメリットがありますし、医師にとってもこれまで"感覚"でやってきた職人技を「見える化」し、標準化できる大きな武器になります。

ただし、最終的に責任を取るのは「人」です。どれだけロボットが進化しても、それに依存せず、人としての技術を磨き続けること——それが外科医の矜持であり、僕自身も日々その覚悟を持って向き合っています。

また現時点では、脊椎や腫瘍といった専門領域にはまだ十分に対応できない面もあるのが正直なところです。そこは豊川市民病院や豊橋医療センターといった東三河の関連施設と連携し、地域全体で「補い合う医療」を実現していきたいと考えています。

そして何よりも大切にしているのが人材育成です。教授と面談したとき、僕が真っ先に伝えたのは「最初の数年は自分が手術を引っ張りますが、その後は必ず若手が主役になれる体制をつくります」ということ。

自分ひとりが手術件数を増やすのは簡単ですが、それでは組織として成長がない。しっかりと技術を継承し、若手にチャンスを与えていくことが、組織の未来を育てることにつながると信じています。

最後に——一隅を照らす一灯として

「一燈照隅、万燈照国」——自分の持ち場を真っすぐに照らす一灯が、やがて大きな光となり、世界を明るくする。

医療は、誰か一人の力ではなく、想いを同じくする仲間たちと共に築いていくものだと思います。

僕もこの蒲郡の地で、静かに一灯をともしたい。そしてそれが、仲間の灯と響き合い、やがて病院全体、地域全体をあたたかく照らしていけたらと思います。

「ここに来てよかった」と誰もが思える病院を——皆と一緒に、力を合わせて、つくっていきます。

とてもアクティブな整形外科チームを当院に作っていただき、ありがとうございます！
市民の多様なニーズに対応できる整形外科を目指してください。

裘医師のツボ

＼愛用のアイテム／

ラグビージャージ

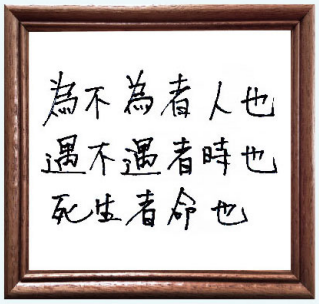
丈夫。20年以上愛用しているものもある。

＼大好物／

桃

甘くてみずみずしくてとても美味しい。

＼座右の銘／



裘医師自筆

行うか行わないかは個人の問題であり、成功するか不遇に終わるかは時世に寄るところであり、死か生かは運命の問題である。

小児科医師
岩城（いわき） 利彦（としひこ）

出身大学 宮崎大学
前勤務地 名古屋市立大学病院

蒲郡の医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いします。

小児科医師
伊藤（いとう） 孝一（こういち）

出身大学 福井医科大学
前勤務地 名古屋市立大学 医学部附属東部医療センター

市民の皆さんに信頼される子どもの総合医を目指します。子どもたちにも分かりやすい説明を心がけます。

整形外科医師
裵（はい） 漢成（ひろなり）

出身大学 琉球大学
前勤務地 豊川市民病院

運動器の『未病』について地域全体で考えていけるよう取り組んでまいります。

新規赴任
New appointment

医師・研修医のご紹介

今年度から、蒲郡市民病院に赴任される医師、研修医を紹介します。

内科医師
高橋（たかはし） 京佑（きょうすけ）

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 豊川市民病院

蒲郡市の医療に少しでも貢献できるよう誠心誠意努めてまいります。よろしくお願いします。

内科医師
牛田（うしだ） 森也（しんや）

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 豊川市民病院

患者さんに寄り添った医療を提供し、蒲郡の医療に貢献できるよう精進します。よろしくお願いします。

消化器内科医師
安藤（あんどう） 慧（けい）

出身大学 愛知医科大学
前勤務地 愛知医科大学病院

患者さんに安心していただける医療の提供を心がけます。消化器内科医として蒲郡における地域医療に貢献できるよう精進しますのでよろしくお願いします。

消化器内科医師
平山（ひらやま） 陽太（ようた）

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 稲沢厚生病院

蒲郡市民の皆さんの心に寄り添えるような医療を提供していきたいと思っております。よろしくお願いします。

整形外科医師
片岡（かたおか） 真弥（しんや）

出身大学 藤田医科大学
前勤務地 名古屋市立大学病院

患者さんに寄り添い、質の高い医療を提供できるよう一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

整形外科医師
桑山（くわやま） 剛（ごう）

出身大学 岡山大学
前勤務地 公立陶生病院

体の痛みでお困りの方、少しでも取り除けるような医療を心がけます。特に手の痛みに悩まされている方、お待ちしております。

整形外科医師
磯部（いそべ） 雄貴（ゆうき）

出身大学 福井大学
前勤務地 八重瀬会同仁病院

蒲郡市民の皆さんにより良い医療が提供できるよう精進したいと思います。よろしくお願いいたします。

内科医師
高橋（たかはし） 美玖（みく）

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 豊川市民病院

蒲郡市民の皆さんに寄り添う心を忘れずに、安心安全な医療の提供ができるよう精進してまいります。よろしくお願いします。

出前健康講座をご利用ください

講演料：無料

健康に関するさまざまな講座をご用意しています。

【市民の皆さん向け】

NEW!
- **股関節とひざの痛み**
  ～最新の治療と痛みの予防のために～
- **認知症ってなあに？**
- **介護食について　他**

【事業所向け】
- **床ずれ予防・処置**
- **正しい爪切りの方法　他**

詳しくは院内パンフレット、またはお電話でお問い合わせください！

歯科口腔外科歯科医師
上本（うえもと） 佳歩（かほ）

出身大学 愛知学院大学
前勤務地 蒲郡市民病院研修歯科医

昨年当院の研修医で学んだことを活かして、市民の皆さんへ最善の医療を提供できるようこれからも精進し続けます。よろしくお願いします。

歯科口腔外科歯科医師
大脇（おおわき） 尚子（なおこ）

出身大学 愛知学院大学
前勤務地 さくら総合病院

患者さんに寄り添った地域医療に貢献できるように精進します。まだまだ未熟ですが、よろしくお願いします。

整形外科医師
伊藤（いとう） 禎芳（さだよし）

出身大学 名古屋市立大学
前勤務地 名古屋市立大学病院

患者さんに寄り添って蒲郡の医療に貢献できるよう精進します。よろしくお願いします。

臨床研修医
鈴木（すずき） 麻周（ましゅう）

出身大学 名古屋市立大学

2年間精進してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

臨床研修医
笠井（かさい） 翔太（しょうた）

出身大学 名古屋市立大学

患者さんに寄り添った医療を提供し、皆さんの健康に貢献できるように精進します。よろしくお願いします。

臨床研修医
大瀬（おおせ） 快ヘルマン（かいへるまん）

出身大学 宮崎大学

地元愛知県、そしてここ蒲郡市の医療に少しでも貢献したいと思っております。見かけた際は気軽にお声をかけていただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

臨床研修歯科医
鈴木（すずき） 優（ゆう）

出身大学 愛知学院大学

地域の皆さんに貢献できるよう、精一杯努力してまいります。よろしくお願いします。

臨床研修医
梶川（かじかわ） 奨真（しょうま）

出身大学 名古屋市立大学

何事にも全力で取り組み、少しでも蒲郡市民病院に貢献出来るように頑張ります。

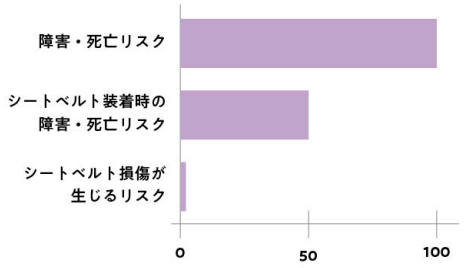
蒲郡市民病院広報誌 海風 - かぜ No.19 2025 SUMMER
〒443-8501 愛知県蒲郡市平田町向田 1-1 TEL：0533-66-2200（代）
公式ホームページ
Instagram @gamagori_hp

整形外科に相談しよう！

骨の『シートベルト』しっかり締めていますか？

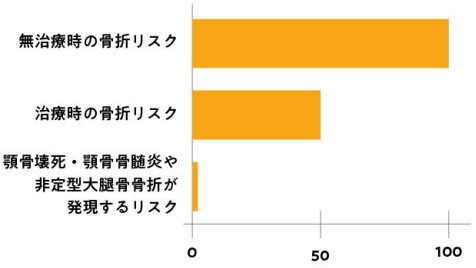
未治療の骨粗鬆症は、まるで「骨のシートベルト」を外した状態です。交通事故でシートベルトを着けないと大けがをするように、骨粗鬆症も治療しないと転倒時の骨折リスクが倍増します。高齢者の骨折は「骨卒中」とも呼ばれ、寝たきりの引き金に。
一度、かかりつけ医に相談してみませんか?

■交通事故



シートベルトを装着すれば、衝突時の重大な傷害や死亡のリスクが約50％減少します。

■骨粗鬆症



ビスホスホネート製剤による治療を受ければ、脆弱性骨折のリスクが約50％減少します。

整形外科チーム紹介

今年度より蒲郡市民病院に赴任しました。
私たちは子どもたちの健康を守るため、新生児検診の実施と、急な骨折などにも対応できる手術体制の充実に努めています。
来院していただいた患者さんに「ここに来てよかった」と思っていただけるよう取り組んでまいります。

編集後記

蒲郡市民病院の整形外科医師チームをご紹介!

6 月から気温もぐんぐん上昇し、この記事を書いている 7 月 4 日には例年よりだいぶ早く梅雨が明け、いよいよ本格的に夏が始まる合図となりました。暑さが苦手なため、夏号の際は暑さのことばかり書いてしまっています(笑)。
さて、今回の海風 Vol.19は整形外科特集です!今年度より蒲郡市民病院に赴任された、裵漢成医師ならびに整形外科医師チームを早々にご紹介できることを大変うれしく思っています!
今後も蒲郡市民病院は市民の皆さんに「大学病院に遜色ない医療」を提供し「ここに来てよかった」と思っていただけるよう精進してまいります。

広報担当者　U・H